



User Profile

筑波サーキット

設立年月

1970年6月22日

所在地

茨城県下妻市村岡乙159

事業概要

二輪の全日本ロードレース選手権やFJ1600などのフォーミュラカーのレース、一般向けの走行会など、ほぼ毎週レース・イベントを開催する。運営は財団法人日本オートスポーツセンター

システム概要、導入の目的と効果

光ケーブルと無線通信を併用して事務所、管制塔、監視ポストを結ぶ構内ネットワークを敷設。日本コムシスのSIPサーバー「comsip」を導入し、フルIPの内線電話・一斉通報システムを構築した。

複数の電話システムを一元化し、情報伝達の効率化、管理負荷の軽減を図った

筑波サーキット

IP電話でコース監視員を指揮
一斉通報にソフトフォンも活用

コース内の監視ポストと管制塔を結ぶ通信システムをフルIP化した筑波サーキット。ソフトフォンを活用した一斉指令システムの新規導入などにより、指揮命令・情報伝達の効率化に成功した。

文 坪田弘樹(本誌)

どこまでも続くかのような田園風景が広がる茨城県下妻市。その南西の端、常総市と八千代市との境付近に筑波サーキットはある。

鈴鹿サーキット、富士スピードウェイに次いで3番目に古い歴史を持つこのサーキットは、全日本ロードレース選手権をはじめとする数々のレースイベントを開催するほか、コースのコンパクトさと、複雑なコーナーが連続するテクニカルなレイアウトで、プロだけでなく多くのアマチュアレーサーをも魅了。設立後約40年にわたりモータースポーツファンの支持を集

めてきた。レースや走行会などのイベントが開催される週末はもちろん、ウィークデイも、練習走行をする会員や、マイカーでサーキット走行を楽しむ家族連れなどで賑わう。

ドライバーを守る電話網

サーキットに集まるドライバーの目的、技量、そして車両の性能は千差万別だが、レースを安全かつ円滑に運営し、また“素人”にも安心して走行を楽しんでもらうためには、コース内の安全確保が欠かせない。その任に当たるのが、メインコース内に計



(財)日本オートスポーツセンター・業務第一課・課長代理の濱野浩氏。「いろいろと厳しい要求をさせていただいたが、日本コムシスのお陰で十分なシステムが構築できた」と語る

11カ所設置されたコーナーポストと、そこで働く監視員、そして彼らを指揮する中央管制室である。

監視員は常にコースの状況を見張り、トラブルや事故の発生時にはコントロールタワー内の中央管制室へ連絡。重大な事故が発生すれば、現場で適切な処置を行う傍ら、救護の要請を行う。また、中央の指揮の下、“旗”により走行中のドライバーに注意を促したり、時には走行中断の指示も伝えなければならない。

情報を素早く集め、対応を判断し、各ポストにそれを伝達する。筑波サ